

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	こどものデイサービスなないろ			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 21日 ～ 2026年 1月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 7 名	(回答者数)	1 7 名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 21日 ～ 2026年 1月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 名	(回答者数)	9 名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスと生活介護、日中一時支援を併用できる多機能型サービスを提供	幼児期から児童期、成人期へと人生のトータルサポートを行っている。こども目線でも保護者目線でも見える化を実施しております。また日中一時支援を併用することで保護者の就労を支えております。	引き続き支援者の体制を整え、保護者就労を支えていけるよう努めます
2	基準人員以上の人員を常勤配置しており、医療的ケア児や重症心身障害児の受入の実施	・支援者の8割が保育・教育・医療の経験5年以上であり、専門的支援体制の構築、実施しています。支援者の誰が休んでも同じ支援の質が担保出来るよう法令で定められた人員以上を常勤採用をしています。 ・医療的ケア児や重症心身障害児に係る各種研修に看護職員以外も参加しています。医療的ケア児受入マニュアルの整備、病院・主治医との連携を行っております。	引き続き支援者の体制を整え、関係機関との連携強化に努めます
3	こども一人ひとりの「らしさ」や「できた」「出来る」を育み、経験を詰めるような支援プログラム、活動を提供	・年間ですべての職員が活動案を出し合い、協議し、活動計画を立案し、各月に反映させて固定化されないように取り組んでいます。ガイドラインの5領域と保育の5領域を合わせて活動計画を策定しています。課題の内容や使用する教材については一人ひとりの発達段階や特性に合わせた支援としております。 ・学校のお休みの営業日には社会資源等の活用を行い、公共交通や社会マナー、金銭管理、買い物体験を実施し社会性の向上や社会参加の場面設定をしております。	引き続きこども自身が「出来た」「出来るんだ」と自信を持って取り組める環境設定に努めます

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流する機会	学童への打診はしておりますが、学童側の人員体制的に交流が難しいとの回答をされています。 そのため、施設一般開放を行い（ななちゃれや0円バザー＆思い出おゆずり会等）地域子どもたちが気軽に参加出来るような取り組みを実施し交流を実施している。	感染防止対策を実施しながら、双方とも安全に交流できるようお声かけは続けていきます。 学童に限らず他のこどもと関わる機会として「放課後等デイサービス交流会」を開催し、他法人、他地域の同じ放課後等デイサービス事業を利用している子供同士と交流を実施しています。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援	保護者の中には、「保護者同士の交流を求めている」方と「求めていない」方と分かれています。保護者同士が自然にコミュニケーションが図れるように環境設定や兄弟児が遊びに来れるようなイベントを企画しているが、趣旨をどのように捉えるかは各ご家庭に任せたいと考える。	年間計画で「保護者懇談会」・「おやこ夏祭り」・「家族記念撮影会」・「思い出おゆずり会」・「施設一般開放ななちゃれ」等、兄弟・家族参加型のイベントを実施している。また各イベントごとに、来場アンケートを実施し常にご意見・ご感想を次に生かしご家族が望むイベントへと対応している

3	職員の配置数について	毎年、年度当初に職員配置一覧表を保護者に配布していますが、制度上の基準人員や加配職員などの違いまでは伝えきれないことが「わからない」という回答になっているのではないかと推測される。	制度における人員基準人数や、加算算定における加配職員などを図に起こして、事業所の職員にあてはめて職員の配置が基準以上配置している事がわかるとより「安心・安全」なご利用につながるのではないかとされる。
---	------------	--	---